

3年次課題研究Ⅱの実践が北海道新聞で紹介されました！

3年次「課題研究Ⅱ」C班の取り組みが、北海道新聞8月20日朝刊「地域の話題」欄に記載されましたのでご紹介いたします。

地域貢献・地域連携を大テーマに、各班が個別の調査探究テーマに取り組む中で、余市町商店街連合会様とのコラボレーションという形で実現した企画です。町内や近隣市町村にお住まいの方は、ぜひご参加ください。

15 地域の話題 小 稿 2022年(令和4年)8月20日(土曜日) 北 海 道 新 聞

余市の商店 スタンプ集めて巡って 余市紅志高生が企画、デザイン

【余市】余市紅志高と余市町商店街連合会が共同で企画した初めての商店街スタンプラリーが、20日から9月20日まで行われる。町



スタンプラリーへの参加を呼び掛ける余市紅志高の生徒

内の6商店街55店舗が参加しており、企画した生徒は「ぜひ商店街に足を運んでほしい」と呼び掛けている。

ラリーは、参加店が発行するスタンプ帳に、入店で1個、買い物で1個のスタンプを押すルール。50個たまると同校生が作ったジャムがもらえる(先着60個)。地域貢献を考える授業を履修した3年の生徒6人が「商店街を元気にしたい」と発案し、商店街連合会の協力で実現した。

55店舗分のスタンプは、生徒がデザインした。塩出雛愛さんは「店の雰囲気伝えるため、実際に店舗に足を運んだこともある」と振り返る。スタンプ帳を作った藤本結花さんは「参加店を見やすく並べることに気を配った」という。

ラリーは授業の課題研究の一環でもある。終了後は、利用者や店舗の双方に聞き取り調査などを行い、成果をまとめて発表する。リーダーの納谷紫音さんは「シャッターアートや花壇植栽など観光客目線のアイデアも出たが、本当に余市が元気になるためには、町民に訴える仕掛けが必要だと思った」と企画の意図を説明する。

商店街連合会の影谷泰尚会長は「高校と地域のつながりが持てる事がうれしい。これを機に、さまざまな店があることを知ってほしい」と話す。研究のとりまとめを行う佐々木美華さんは「店の人との会話を通じて親しくなることもできる。大型店にはない良さだと思う」と、自らラリーを楽しむつもりだ。

問い合わせは余市紅志高、電話0135・23・3191、または余市町商店街連合会、電話0135・23・2116へ。(松橋如奈)